

サーバソフトウェア製品「Samba 4」導入事例

株式会社 高田工業所 様

グループウェアの更新に合わせ
 認証基盤をSamba 4へとバージョンアップ
 わずか1日で移行し、最新のWindowsクライアントに対応



総合プラント建設会社として、製鉄や化学、エネルギーなど各種産業設備の設計、製作、建設、メンテナンスを行う高田工業所。同社では、PCを使うユーザーが増えるとともに、Windowsサーバへ接続するためのクライアント アクセス ライセンス (CAL) のコストが問題となっていました。この問題に対応するため、同社はOSS(オープンソース・ソフトウェア)のサーバソフトウェア製品「Samba 3」を自力で導入したところ、時間がたつにつれ、新しいWindowsクライアントへ標準で対応できないという問題が浮上。そこで同社ではグループウェアを更新する際に、「Samba 3」から「4」へのバージョンアップを検討。今回は自力での移行で期間がかかったため、今回はオープンソース・ソリューション・テクノロジー(以下、OSSTech)へ依頼し、わずか1日で新たな認証基盤へ移行することができました。

課題

既存の環境では最新の
Windowsクライアントに標準で対応できない

解決

最新のWindowsクライアントにも標準で対応、
PC導入の際の手間がなくなる
Samba 4を利用することで
今後のバージョンアップを含めCALが不要に

CALのコストを削減するため Samba 3を導入

1940年に創業以来、総合プラント建設会社として化学、製鉄、石油・天然ガス、原子力、エレクトロニクス、環境などさまざまな産業における設備の設計、製作、建設、メンテナンスを行ってきた高田工業所。最近では超音波カッティング装置や枚様式ウェット処理装置など、エレクトロニクス関連の分野にも進出しており、海外へも早くから展開してきました。同社の大きな特徴は、何より人材を重視していること。技能の習熟や伝承のためTAKADA研修センターという教育訓練用施設を開設したり、社内では技能オリンピックを開催したりするなど、その育成へ熱心に取り組んでいます。

さて同社では、1995～96年ごろにWindows NT 3.51を導入し、社内業務のIT化に取り組んで来ました。この点について情報システム部主管の本多一裕氏は「当初、仕事でPCを使うのは一部の人間だけでした。しかし2003、4年ごろから業務のIT化が進み、一人1台の体制となりました。こうなるとIT関連の導入・運用費用がかさみ、中でも問題となったのがWindowsサーバへ接続する際にかかるCALのコストでした」と振り返ります。

こうした状況を鑑み同社は、2005年にグルー

プウェアを更新する際に、なんとかCALのコストを削減する方法を模索。システムの導入・運用などで付き合いのある新日鉄住金ソリューションズに相談したところ、NTドメインの代替手段として「Samba 3」を紹介されました。SambaはWindowsのファイルサーバ機能やドメインコントローラ機能、Windows GUIによる管理機能、名前解決機能などを提供するサーバソフトウェア製品で、オープンソースのため、大幅なコスト削減が可能です。その採用にあたって情報システム部長の中川淳一氏は「なんといってもCALの費用がかからないのが魅力ですね。オープンソースのソフトウェアとはいえ、すでに他社での導入実績もあり、特に不安はありませんでした」と述べています。

最新のOSに対応すべく Samba 4へのバージョンアップを決断

Samba 3を導入後、高田工業所ではNTモードでユーザーやPCのアカウントを管理し、問題なく運用していました。しかし、時間の経過とともに社内のPCが更新され、Windows 7など新しいOSを搭載したPCもネットワークへ入ってくるようになりました。「PCがWindows 7以降のOSを搭載している場合、Samba 3で使うためにはレジストリを変更する必要があります。つまり、新しい

PCを導入するたびに作業を施さなくてはなりません。現在、当社で稼働しているPCの多くはWindows 7で動いていますし、これから新たに導入するPCのOSもWindows 8.1や

- ・会社名 株式会社高田工業所
- ・代表取締役社長 高田 寿一郎
- ・創業 1940年
- ・社員数 1537名(2016年4月1日現在)

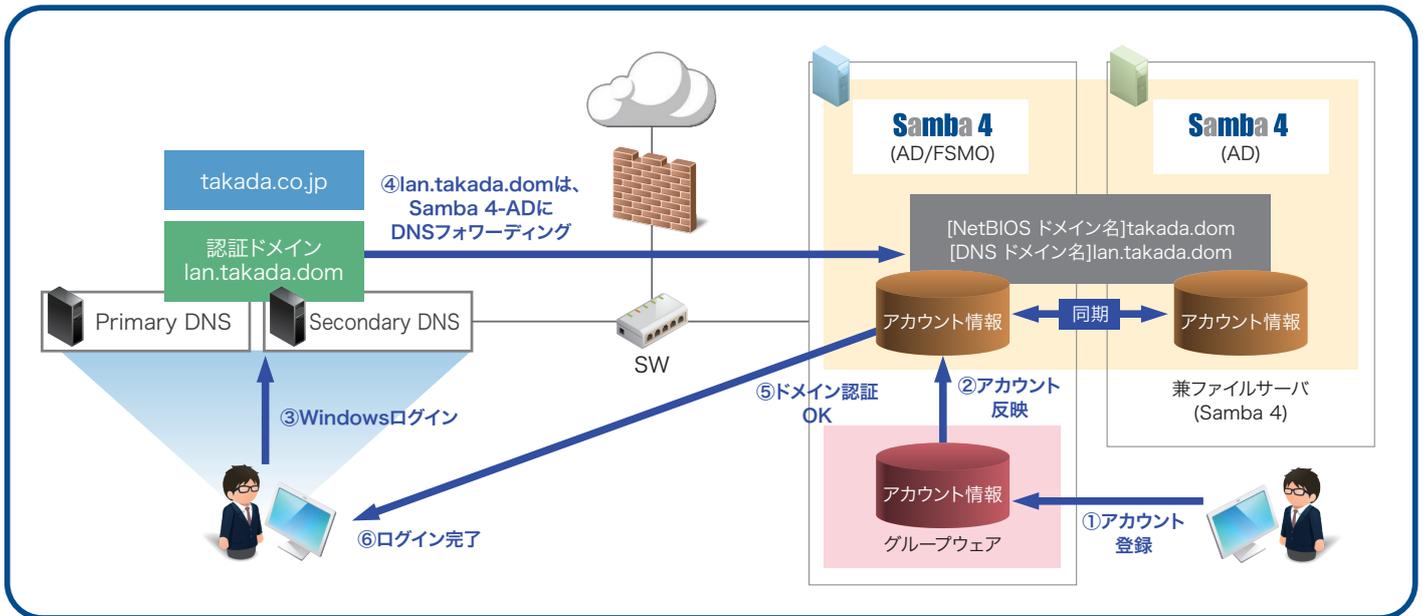
お話をうかがった皆さん



情報システム部長
中川 淳一氏



情報システム部 主管
本多 一裕氏



10になるはず。これでは手間がかかるばかりですので、抜本的な対策が必要だと判断しました」(中川氏)

そこで同社はSambaの最新版である「Samba 4」へのバージョンアップを決めたわけですが、前回のSamba 3の導入は自社で行ったためにNTドメインの移行が完全にできずID/パスワードの移行、マシンアカウントの再登録などを手作業で行うことになり、結構な手間がかかってしまいました。

「当社にはSamba 3のNTドメインに参加している端末が約3000台あります。それをまた一から登録すると、かなりの手間がかかってしまいます。OSSTech製Samba 4であれば、ID/パスワードの移行、マシンアカウントの再登録不要でSamba 3のNTドメインからSamba 4のADドメインへのバージョンアップが可能でした。もちろん、従来通りCALのコストもかかりません」(本多氏)

2015年4月、ちょうどグループウェアが更新するのに合わせ、同社はSambaを3から4へとバージョンアップすることを決断しました。

検証期間を十分に取ることで わずか1日で移行を実現

さて実際に高田工業所で新しい認証基盤が

稼働したのは2016年5月30日のことでした。Sambaのバージョンアップが決まってから実際の稼働まで1年以上が経過していますが、これだけの時間がかかったのには理由があります。

「当時は某グループウェアを使っていたのですが提供終了となり、リリース予定の後継製品もなかなか出てこなかったのです。結局、そのぶんだけSamba 4へのアップグレードも遅れることになりました」(中川氏)

具体的なスケジュールは、2016年1月から社内を検証環境を構築し、十分な時間を使ってテストを実施。その結果、移行は僅か1日で終了し、Samba 4を使った新しい認証基盤が稼働しました。本多氏は「後継のグループウェアはリリース直後で、利用にあたってはさまざまな懸念材料がありました。しかし、オープンソースのエキスパートであるOSSTechの手厚い支援もあり、その不安を払拭することができました。おかげさまで、導入からこれまで、大きなトラブルも無く安定して動いています」と述べ、中川氏も「Samba 3を導入した際は、ユーザー自身にドメイン参加してもらう作業があったため、朝から晩まで問い合わせの電話が鳴り止みませんでした。しかし今回はそういった作業もなく、平穩に移行することができました。これだけス

ムーズに移行ができたのも、OSSTechのサポートがあったからですね」と満足そうに語っています。

リプレースを機に他のシステムにも Samba 4の適用を検討

現在、高田工業所には個別で認証を行っているシステムが存在していますが、これらが古くなり、リプレースを行う時点で、Samba 4を適用し、認証基盤の一元化を検討しているそうです。

また同社は、モバイル端末からシステムへのアクセス向上も視野に入れています。かねてから経営陣にタブレットを配付し、社外からのアクセスを可能にするなど、モバイル端末の積極的な活用を推進していますが、この点について中川氏は「今後はますますモバイル端末を使う機会が増えていくと思いますので、OSSTechにはさまざまな面からご協力いただければ幸いです」と展望を語ってくれました。

今回の導入製品

● Samba 4